



10



15



18



1

第10回 燈花と芸術の森 作品展

平成29年 8月5日(土)～8月14日(月)

8/7(月) 14(月) は休館

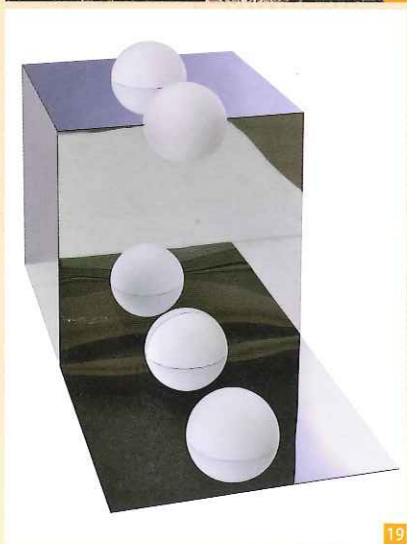


31



- | | | |
|-----------|--------------|-------------------------|
| 1. 木村 光治 | 11. 加藤 勝久 | 21. うらはま さひこ |
| 2. 堀 信二 | 12. 中嶋 光 | 22. 吉中 健人 (奈良県立高円高等学校) |
| 3. 瀬井 徳司 | 13. 辰巳 義男 | 23. 磯西 愛侑奈 (奈良県立高円高等学校) |
| 4. 杉原 章弘 | 14. 鈴木 26 松尾 | 24. 岩尾 里菜 (奈良県立高円高等学校) |
| 5. 大家 勝 | 15. 福島 知 | 25. 神山 菜摘 (奈良県立高円高等学校) |
| 6. 田村 晴江 | 16. 向川 貴大 | 26. 鶴山 沙希 (奈良県立高円高等学校) |
| 7. 中島 清 | 17. 杉村 仁 | 27. 寺田 絢香 (奈良県立高円高等学校) |
| 8. 岩谷 誠久 | 18. 石増 敏枝 | 28. 藤田 葵 (奈良県立高円高等学校) |
| 9. 和田 信隆 | 19. 鈴木 正三 | 29. 南本 桃花 (奈良県立高円高等学校) |
| 10. 淀川 和男 | 20. 若林 節子 | 30. 手嶋 あみ (高等養護学校高円分教室) |

31. 関西文化芸術学院 高等課程クラフト
陶芸専攻及び、1～3年生の生徒及
び、専門学校関西文化芸術学院芸術
総合学科の学生





※出品作品ではないものをカタログ掲載していることがあります。

あいさつ



奈良県文化会館
館長 石井 一良

「第10回燈花と芸術の森」が華やかに開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

この事業は、文化を通じた感動と交流の場づくりを目指す奈良県文化会館を舞台に、文化芸術を愛し創作する人々にとって新たな作品発表の場を創り出すと共に、人が集い楽しむ場となることを目指すものです。

古都の夏の風物詩となった「なら燈花会」の開催期間に合わせた野外の美術展として始まったこの催しも、早いもので10回を数え、いまや奈良の夜を彩るページェントとして定着して参りました。

本年も、つどいの広場や交流サロン及び中庭において、県内美術系学校の生徒をはじめ先生や作家の方々が制作した彫刻・燈火器・オブジェ等の作品が展示されます。夜はろうそくの揺れる灯りが作品を照らし、その光が創り出す陰影（かげ）が、作品に昼間とは違った表情を与え、幽玄な世界へいざなうこととなるでしょう。

なお、本県におきましては、いよいよこの秋、国内最大級の文化の祭典であります「第32回国民文化祭・なら2017」および「第17回障害者芸術・文化祭なら大会」が全国で初めて一体開催されます。

この事業を通じて、県が進めている文化振興をさらに発展させ、日本の精神文化と国家形成の地である古都奈良から、日本の文化・芸術の真髄を全国に発信するとともに、障害のある人となない人の新たな関係づくりの一助にしたいと考えております。文化芸術に携わる総ての人々の御協力を心よりお願いする次第です。

最後になりましたが、県立高円高等学校、県立高等養護学校及び関西文化芸術高等学校の先生・生徒の皆様方、素晴らしい作品をご出品いただいた作家の皆様方など、多くの関係の方々に深く感謝申し上げます。

今後とも引き続き、文化芸術活動を通じて地域振興の一翼を担っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。



奈良県立高円高等学校
校長 吉田 勝哉

本年度も「第10回燈花と芸術の森」作品展が奈良県文化会館において開催されますことを大変嬉しく思います。作品展開催に関わっていただきました皆さまに深くお礼申し上げます。

上げます。

高円高校では美術科、デザイン科の生徒たちが日々作品制作に



奈良県立高等養護学校
校長 仲子 宏

「第10回燈花と芸術の森」作品展の開催、心よりお慶び申し上げます。

今回の作品展には、本校の高円分教室の生徒をはじめ、卒業生にも作品出展の機会をいただき誠にありがとうございます。日頃、分教室において

「芸術表現」のコースで学習に取り組む生徒にとりましても大変、励みになることと思います。

ご来場いただいた皆様には、ゆっくりと作品をご覧ください、ご批評をいただくとともに今後とも本校分教室の活動にご支援いただければ幸いです。

この「燈花と芸術の森」作品展がこれからも益々発展することを願っています。最後に、実行委員会の皆様には出展の機会をもうけていただき、お世話になったことを御礼申し上げます。



関西文化芸術学院
校長 大橋 英夫

古都奈良の夏の夜を幻想的に照らす「燈花と芸術の森」に、当学院、クラフト陶芸専攻の生徒たちの作品を展示いただけますこと、大変うれしく思っております。

高校生は、技術的には未熟な部分もあるものの、我々大人が想像すらできないような作品を作り上げます。「燈花と芸術の森」に来場される皆様に、陶芸の奥深さを知っていただき、少しでも高校生の瑞々しさを感じていただけますと幸いです。

最後に、生徒の作品を多くの方々にご覧いただけます機会を頂戴しましたことに感謝申し上げますとともに、これからも「燈花と芸術の森」が奈良の都の夏の風物詩として、ますます発展されることを願っております。

最後に、生徒の作品を多くの方々にご覧いただけます機会を頂戴しましたことに感謝申し上げますとともに、これからも「燈花と芸術の森」が奈良の都の夏の風物詩として、ますます発展されることを願っております。